新郷啓子 著

『 **抵抗の轍　アフリカ最後の植民地、西サハラ** 』（インパクト出版会）

出版記念トーク

自由と尊厳を求めて サハラーウィ40余年の闘い

～著者・新郷啓子さんに聞く～

2020. 1.9 (木)

時間	19:00～20:30（開場18:30）
場所	文京シビックセンター　3F　会議室1＋2 （東京都文京区春日1-16-21）
参加料	500円

スピーカー

新郷 啓子（著者）
鵜飼 哲（一橋大学特任教授／フランス文学・思想）
岡 真理（京都大学教授／アラブ文学）

アクセス

- 東京メトロ後楽園駅・丸ノ内線（4a・5番出口）南北線（5番出口）徒歩1分
- 都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線（文京シビックセンター連絡口）徒歩1分
- JR総武線水道橋駅（東口）徒歩9分

参加登録

以下のサイトから参加をご登録下さい。
https://forms.gle/nN8oun73U2bgSYs57

Friends of Western Sahara Japan 西サハラ友の会

主催／問合せ：西サハラ友の会（info@fwsjp.org）
後援：NPO法人 アフリカ日本協議会（AJF）

趣　旨

1993年に『蜃気楼の共和国？　西サハラ独立への歩み』（現代企画室）を世に出して26年。新郷啓子さんは、ヨーロッパを拠点に、40年近くにわたり、自由と尊厳を求めて闘うサハラーウィ（西サハラの人びと）に寄り添いながら、彼らの解放闘争の支援活動を続けてきました。日本で西サハラ問題を熟知する第一人者です。

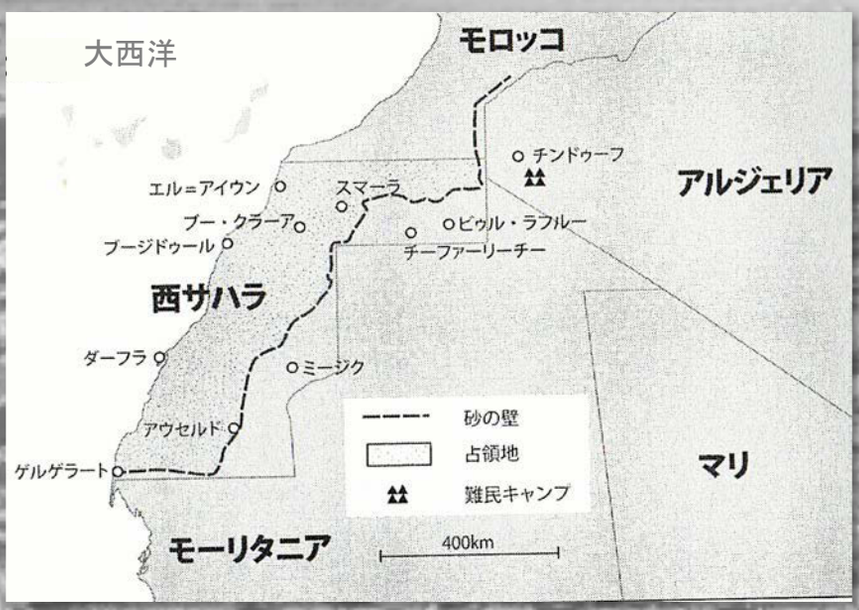
その新郷さんの待望の新刊『抵抗の轍　アフリカ最後の植民地、西サハラ』（インパクト出版会）が11月に出版されました。出版を記念して、来日する新郷さんからお話を聞きます。また、新郷さんの長年の友人である鵜飼哲さんと岡真理さんを交え、西サハラを知る意味、今行動する意義を考えます。

西サハラとは？

北西アフリカにある旧スペイン植民地。1975年、独立過程で隣国のモロッコに侵攻され、領土の大半が占領下に。現地では逮捕、拷問、投獄など深刻な人権侵害が起きています。侵攻を逃れたサハラーウィはポリサリオ戦線に結集し、アルジェリアで難民キャンプを建設して暮らしています。1976年、「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言しました。

1991年、ポリサリオ戦線とモロッコは停戦と住民投票の実施に合意。国連は住民投票派遣団を設置しましたが、モロッコやフランスの妨害により、まだ実施できていません。

西サハラはリン鉱石の産地であり、豊かな漁場があります。モロッコはそれらを自国産として輸出しており、西サハラで獲れたタコはモロッコ産として日本にも来ています。一方、サハラーウィは占領下で脇に追いやられ、就職等で差別的待遇を受け、発展から取り残されています。



地図：岩崎有一氏 作成

西サハラ友の会

2019年6月に市民が設立した会で、西サハラの人びとが平和のうちに暮らせることを願い、国際社会が約束した非植民地化のプロセスが前に進むよう、各方面に働きかけることを目的としています。世界中に西サハラの人びとを支援する活動があり、それらと連携し、西サハラの友の輪を広げていきたいと考えています。

ウェブサイトは、https://fwsjp.org/